



水野晴光議員

◇新幹線について

【質問】駅舎のデザインについて、新幹線に乗ったまま、飯山の町や田園風景が見えるような駅舎を希望するが、市は基本的にどのような考えで、駅舎のデザインを鉄道運輸機構やJRに伝えていくのか。

【市長】飯山の美しい風景が眺められ、飯山に降りてみようと思うようなデザインになるようにJRの支社長に要望している。

【副市長】北陸新幹線の中でも特に自然が美しい地域である。これをコンセプトにすることが、広域観光としても重要なポイントであると考えている。

◇義務教育の体育について

【質問】来年度より小中学校の体育の授業において、武道が必須科目となると伺っているが、その内容はどのようなものか。また当

市の取組はどのように進めるのか。

【教育委員長】平成24年から中学1、2年生で武道が必修となる。武道の指導については、体育の教師が行う。また用具については、完全実施までに不足分を整備したい。

◇直売所について

【質問】板橋区の大山商店街については、平成20年度より「とれたて村」として直売所を開設し、当市の農産物の販売拡大と観光のPRを兼ねて運営しているが、テナント料や職員の派遣経費等多額の金額を費やしており、今後の在り方はどのように考えているのか。

【市長】都市に向けた情報発信、農産物の宣伝媒体の大きな拠点として考えている。3年計画であるので、費用対効果では計り知れないものもあるが、3年間を総括して今後のあり方を検討したい。

【質問】道の駅千曲川の直売所の売り場が手狭である。建物増設を早期に希望するが、いつ頃になるのか。

【市長】秋のうちに施工と想っていたが、政権交代の関係で少し補助事業も変わるということなので、22年度予算で検討したい。



道の駅千曲川



竹井政志議員

◇生活保護申請について

【質問】昨年来の深刻な不況の中、雇用情勢も益々悪化し「貧困と格差」が広がっている。憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する、生活保護制度の役割が非常に重要になっている。

飯山の場合、平成19年の申請件数は12件で、平成20年



大野峰太郎議員

◇「西大滝ダムの水利権更新に反対」について

【質問】一貫して河川敷上昇は無いとされる根拠は。

【部長】5年毎に定点観測を実施し全体として治水上心配するような上昇は無いと聞いている。

【質問】当地堤防の内部構造は用土等軟弱堤防であり、矢板工護岸工事後の漏水状態は改善されていない。どう対処する予定か。

【部長】今後も必要箇所については現地の確認をして要望活動をしていく。

【質問】中洲及び河岸の堆積土砂も年々巨大化している。どのような認識でいるのか。

【部長】上流下流のバランスをとり対応していく課題と認識し、要望を続ける。

【質問】河岸・河川敷の雑木の除去は一部実施に留まっているが全面伐採はできないのか。

【部長】引き続き要望していく。

【質問】河川整備方針及び河川整備計画の住民懇談会も一度開催された以降、未だに進捗の報告すら無い。いつ具体化するのか。

【部長】骨子案の公表は現在未定の状況。住民懇談会については決まり次第市民に周知徹底を図る。

【質問】下流域の築堤完成は何年の予定なのか。

【部長】桑名川完成は平成26年度、下境完成は29年度と聞いている。

【質問】国・県の財政事情等から河川改修費用は激減、計画の進捗、完了の見解を聞きたい。

【部長】現状の中でも整備が必要な所には財源を確保し、計画的な治水事業を実施するために策定されていると理解している。

【質問】西大滝ダムの耐用年数は何年とされているか。耐震性に問題は無いのか。東電からの報告は診断結果を証明する書類を確認したか。

【部長】明確な耐用年数の定義は無いと言われている。適切な維持管理を行うことで長期的な期間の維持機能は可能であると聞いている。

【質問】これら全てに関連し

て、最も早く公費を必要とせず治水効果を望める方法が、現行河川法違反の西大滝ダム水利権更新を止めることであり、ダムの撤去を求めることである。見解を聞きたい。

【市長】ダムが撤去されればすべて解決というわけにはいかない面もたくさんある。



西大滝ダム



小林喜美治議員

◇福祉医療制度について

【質問】福祉医療費の手数料の引き上げについて、すでに県において引き上げの方向が示され、この問題では、3月の議会でも質問をしている。その時は県の方針にそって事務を進めたいとのことであった。今議会

は4件に激減している。貧困と格差が増大しているにもかかわらず、生活保護制度を受けにくくしているのではないか。

【市長】弱者を救うという人間としてのあり方をしっかり位置づけし、予算の範囲内で対応していく。

【部長】国から示されている資産の活用という要件に基づいて、預貯金調査を実施して、基準に満たないというケースもある。相談して申請にいたらない場合でも継続して相談にのるなど、申請権の侵害がないようにしていく。市民の目線で相談につていきたい。

◇平和学習派遣事業について

【質問】今世界では、オバマ・アメリカ大統領が4月にチェコのプラハで「核兵器のない世界」を追求すると宣言したことで核兵器廃絶の流れに新たな勢いがついている。被爆者も「生きていくうちに確実に核兵器をなくして欲しい」と声を強めている。このように昨年から比べ、平和を願う世論

が大きく変化してきている中で、飯山市では今年も平和記念式典に中学生6名を派遣した。2年連続の派遣事業からどんな効果がでているのか、また今後の課題は何か。

【教育長】生徒が「今まで教科書などで知識があったが、遠い昔のことと考えていた。しかし、実際に広島で当時の戦争の写真や、原爆投下の映像を見たりしてどんなに悲惨なことか実感した」と報告しているように効果が出ている。日本は憲法9条で「戦争の放棄」をうたっている。また、唯一の被爆国として、核のない平和な世界を願っている。この願いにそって平和学習をすすめていきたい。



平和記念式典に参加した中学生

る被害対策の問題が出された。昨年来より被害が続出しており、刈り取り間際の水田に深刻な被害が出た。今回の補正で捕獲用の檻の作成にかかる予算が計上されていることについて、一定の評価をする。有害鳥獣の対策にはいろいろな制約があり、行政として抜本的・総合的な対策をはかる必要があると思うが今後の対策についての見解を。

【市長】今回の補正で、檻・罠の補正をお願いし、補助していききたい。22年度、猟友会への補助等、基本的な予算をつくりながら鳥獣被害から農業を守っていききたい。すでに自主的に電気柵を張って対策しているところもあるが、電気柵の普及なども真剣に検討していきたい。



イノシシの被害を受けた田